

令和7年度 第1回 川西市環境審議会部会 次第
(生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会)

日時：令和7年7月18日 14:00～

場所：川西市役所 4階 庁議室

1. 委員長 あいさつ

2. 委員 紹介

3. 議事

(1) 生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和6年度）について

【資料1】【資料2】

(2) 出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群
保存のための啓発について

【資料3】

4. その他

(1) 自然活動団体用パンフレットスタンドの設置について【資料4】

(2) 本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況について【資料5】

(3) 市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメント
について

【資料6－1】【資料6－2】

5. 市民環境部長 あいさつ

【配付資料】

- ① 令和7年度 第1回 川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会） 次第
- ② 令和7年度 第1回 川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）委員名簿
- ③ 令和7年度 第1回 川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）座席表
- ④ 【資料1】生物多様性ふるさと川西戦略評価指標（令和6年度）
- ⑤ 【資料2】生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和6年度）
- ⑥ 【資料3】出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について
- ⑦ 【資料4】自然活動団体用パンフレットスタンドの設置概要
- ⑧ 【資料5】本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況
- ⑨ 【資料6－1】市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（1）
- ⑩ 【資料6－2】市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（2）

令和7年度第1回川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）委員名簿

2025/7/18

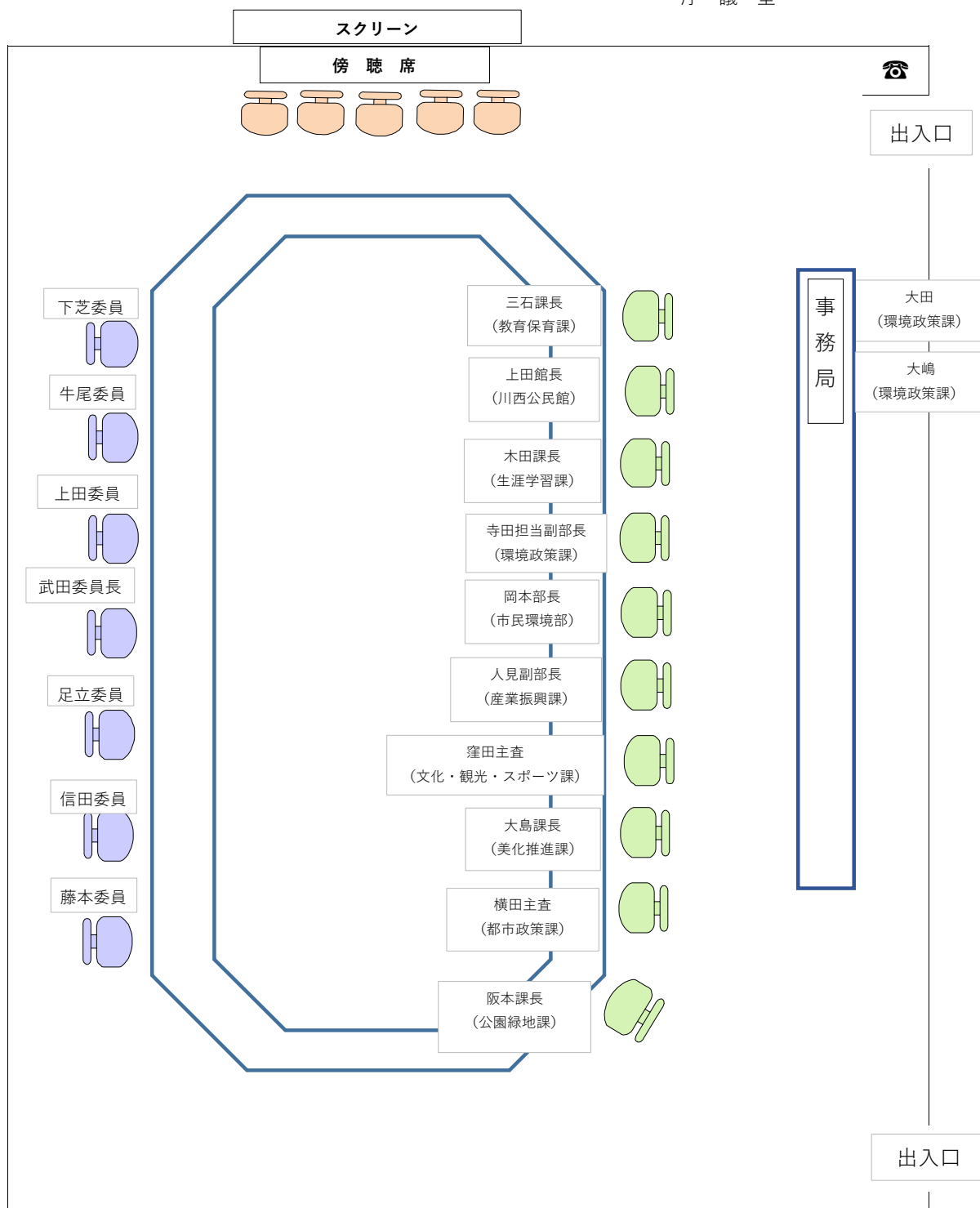
No.		氏名	役職	選出区分	備考
1	委員長	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究 科名誉教授	環境審議会委員	
2	委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会会 長	市民又は 関係団体の代表者	
3	委員	上田 萌子	大阪公立大学准教授	学識経験者	
4	委員	牛尾 巧	一庫公園管理事務所長	市民又は 関係団体の代表者	
5	委員	下芝 勇登	流域ネット猪名川 代表	市民又は 関係団体の代表者	
6	委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長	市民又は 関係団体の代表者	
7	委員	藤本 幸一	森林インストラクター	環境審議会委員	

(五十音順)

令和7年度 第1回 川西市環境審議会部会
 (生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会) 座席表

令和7年7月18日(金) 14時～

庁 議 室



生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

No.	基本戦略	評価指標	担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
	1. 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育										
1	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	保育所	教育保育課	市立保育所の全園児・保育士	—	440 (対象者全員)	366 (対象者全員)			
2	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	幼稚園	教育保育課	市立幼稚園の全園児・教諭	—	761 (対象者全員)	634 (対象者全員)			
3	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	小学校	教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年生	3904 (対象者全員)	3,531 (対象者全員)	3,648 (対象者全員)			
4	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	中学校	教育保育課	市立学校の全中学2年生	1243 (対象者全員)	1,206 (対象者全員)	1,243 (対象者全員)			
5	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	研修を受けた年間の教職員数(人)		教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年教員	45	19	24	対象となる市内3年・4年・5年担当全教員が5年程度で1回は参加できるように工夫。学校ごとに毎年最低1名参加。		
6	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	環境に関する公民館講座を受けた人数(人)	川西公民館			—	78	111			
	2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発										
7	◆広報や市HPによる情報発信	1年間の各HPへのアクセス数(件)		環境政策課	増やす	7,289	8,767	8,264			
8	◆広報や市HPによる情報発信	1年間に紹介した自然環境の数(件)		環境政策課	増やす	4	5	5			
9	◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	指標「景観に関心のある市民の割合」(%) (市民実感調査)		都市政策課	85.0	—	82.6	76.9			
	3. 生物多様性保全の取組みの強化										
10	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援	2032年に実施予定のアンケート調査結果		環境政策課	—						2032年に実施予定
11	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	指定・登録文化財(天然記念物)の件数(件)		生涯学習課	—	—	13	14	兵庫県立一庫公園モリアオガエル生息地 R7.3.31新規登録		

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

No.	基本戦略	評価指標		担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
12	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	緑地における維持管理団体数(団体)		公園緑地課		—	3	3				
13	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	1年間に捕獲した有害鳥獣及び 外来動物の数(頭)		産業振興課	254	193	213	286	捕獲数 アライグマ 180頭、ヌートリア 6頭 イノシシ 34頭、シカ 66頭			
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大												
14	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1年間の情報交換などの実施回数(回)		環境政策課		1	1	1				R6.10環境フェスタ
15	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1 年間に支援したボランティア数		産業振興課	250	267	153	146	(前回委員意見)林野庁が「森林山村多機能推進支援金」を出しているが、その補助はむしろ市とか県の助成を受けている方が支給しやすくなっている。その辺も考えてもらえたら市の方も他でどれだけ支給されているのか把握しておいた方がいいと思う。 (市)市以外の補助金について、市では交付の実態を把握していないが、団体から補助金の相談を受けた際には、「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」の説明を行っている。 ※令和7年度から里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金に制度変更しています。			令和5年度は、市以外の支援制度を活用した団体等があり、数値が減少した。 (委員) 1年間に支援したボランティア数が減っているのは、市以外の支援制度を活用しているとあるが、市以外の支援制度をかなり受けているのか。皆さん、市以外のところでされているのか。また、市以外から支援を受けたら、川西市では支援を受けられないということなのか。 (産業振興課) 国や県のほか、民間団体等の支援を受けて活動されていると聞いています。「支援したボランティア数」の減少については、支援制度の併用可否のほか、活動団体数の減少も影響していると考えます。 本市以外の支援制度が、本市の制度との併用が可能かどうかは把握しておりません。 令和5年度までの本市制度は他の支援制度との併用ができませんでした。 令和6年度以降は、取組ごとに財源を整理いただけるのであれば併用可能な制度としました。 (委員) 林野庁が「森林山村多機能推進支援金」を出しているが、その補助はむしろ市とか県の助成を受けている方が支給しやすくなっている。その辺も考えてもらえたら市の方も他でどれだけ支給されているのか把握しておいた方がいいと思う。
16	◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	1年間に実施した河川美化活動の回数(回)		美化推進課		12	8	10				

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
1	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の醸成 及び生物多様性 教育	1)	児童・生徒を対象 とした環境教育の 実施	①	就学前園児の 環境教育方針	国の定める3法令や市規定の全 体的な計画などに基づいて、各 園所で計画を立てて、園所内の 自然環境を生かした取組みや 県や市の企画に参加したりして 環境保育に努めています。 ※国の定める3法令:保育所保 育指針、幼稚園教育要領、幼保 連携型認定こども園教育・保育 要領	教育推進部	教育保育課	A	園所ごとに計画を立て、園所 内の自然を生かして植物や生 き物に触れたり、散歩や園外 保育の際に地域の身近な自然 に触れる機会を意図的にもつ たりし、子どもの興味を広げたり、関心を深めたりした。	園所内の自然だけではなく、散歩や園外 保育等を通して、自然や生き物と触れあ う機会をもつことができた。また、県立人と自 然の博物館実施の「エコロプロジェクト」 に参加した園所もある。 園所内の自然については各園所違いがある ので、栽培物など計画的に自然に触れる 機会を今後もつくっていくことが必要であ る。	自然に触れる中で、好奇心や 探究心を育み、観察したり、 調べたりしながら心を育んで いきたい。また、年間通して自然 に触れる体験ができるよう 計画し、教育・保育活動を実 施していく。	
2	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の醸成 及び生物多様性 教育	1)	児童・生徒を対象 とした環境教育の 実施	②	小学校体験活 動(環境体験)	小学校3年生を対象とした「環境 体験」を実施し、児童が普段生 活している地域の自然の中に出 かけて環境体験をします。また、 本市独自の自然や産物を知り、 それらを広めていくことで、環境 問題を考えて解決していく素地を 育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で校区内の地 域の畑や河川、公園、猪名川 流域等に赴き、植物や動物等 に触れた。	小学校3年生の児童が環境問題に興味 関心を持つようになった。また、校区にどの ような環境があるかを学ぶことができ、川西 市の特産品を学ぶなど、地域の方々と共に 活動することができた。 地域によっては活動プログラムが確立さ れておらず、地域での活動が希薄である小 学校があることが課題である。	地域参画を目指し、SDGsの 視点を取り入れ、各小学校の 独自性を活かした小学生が主 体的に環境教育に取り組むこ とができる環境体験プログラム を構築していく。 また、3年生の環境体験、4 年生の里山体験、5年生の自 然学校と系統性をもったカリ キュラム(内容やプログラム)の 設定を各校へ促していく。	
3	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の醸成 及び生物多様性 教育	1)	児童・生徒を対象 とした環境教育の 実施	③	里山体験学習	小学校4年生を対象に「里山体 験学習」を実施し、日本一の里 山である黒川地域を体験活動 の場として、自然に対する畏敬 の念をはじめ、生命のつながり、 環境保護の大切さを実感し、美 しさに感動する豊かな心を育ん でいきます。本市の自然特性を 活かした、独自の環境教育で す。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で2回以上実 施した。黒川地区に赴き、植物 や動物等に触れた。 また、黒川地域の方々に触 れ、里山と共に人間がどのよう に生活してきたかを学習した。 社会教育団体の方々と共 に、里山資源を使い、木工クラ フト等を作成した。	小学校4年生が黒川の方々や社会教育団体の 方々の協力を得て、川西の特産品をはじめ、環 境問題や生活の知恵等、幅広く学習をすること ができた。 里山と人間がどのように関わってきたかを学習 し、SDGsについて理解を深めることができた。 黒川地区のサポーターの方々が、年々減少し ているが、広域に募集を行い、増員することが できた。 既存の活動だけでなく、柔軟に会場や内容を工 夫することができた。	黒川地区のサポーターの数を 増員し、少人数による体験学 習を実現できるようにする。 サポーターの方々の資質向 上を目的とした実地研修や、 活動内容をより良くしていく ための打ち合わせを増やしてい く。	(委員)サポーターの数を増員するという記述があるが、里 山サポーターの協力を得られるように市のほうでも支援をし ていただきたい。 (教育保育課)里山サポーター会の募集については、HPや ポスター等で行っています。サポーターの方々への報償費 も予算計上しております。なお、令和6年度では、それらの 取り組みが功を奏し、新たに2名の登録がありました。今後 も積極的な募集を行っていきます。 (委員)里山体験学習のサポーターは高齢化して、なか か厳しい状況である。この取り組みが、将来子供たちが里 山の大切さをつないでいく取り組みの一つとしてされている ので、サポーターの人数の増加というものが必要なかと思 う。 (市)サポーターの高齢化、人数の増加については問題意 識を持っており、HP等で呼びかけを行っているところであ る。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
4	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の醸成 及び生物多様性 教育	1)	児童・生徒を対象 とした環境教育の 実施	④	小学校体験活 動(自然学校)	小学校5年生を対象に「自然学 校」を実施し、児童が兵庫県に ゆかりのある人や自然、地域社 会と触れ合い、理解を深めるな ど、長期宿泊体験を通して、自 分で考え、主体的に判断し、行 動し、よりよく問題を解決する力 や、生命に対する畏敬の念、感 動する心、共に生きる心を育む など、「生きる力」を育んでいきま す。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で兵庫県内での 長期宿泊体験を通して、兵 庫県の実、生物に触れ、理 解を深めた。	小学校5年生の児童が環境問題により興 味関心を持つようになった。また、県内にど のような環境があるかを学ぶことができ、川 西市の良さや特徴を学ぶことができた。 施設によって、活動時期の選択肢が限ら れ、看護師などの外部人材の確保、教職 員の負担が大きいが課題である。また、 4泊5日の中で体調不良者や熱中症が起こ り、体調面における安全性の確保が困難で ある。	引き続き、充実した自然学 校を実施したい。そのため に、今年度から始まった自然 学校人材バンクの活用や、市 のHPを通じた看護師などの外 部人材の募集に力を入れて いく。 また、3年生の環境体験、4 年生の里山体験、5年生の自 然学校と系統性をもったカリ キュラム(内容やプログラム)の 設定を各校へ促していく。	
5	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の醸成 及び生物多様性 教育	1)	児童・生徒を対象 とした環境教育の 実施	④	中学校教育支 援	中学校2年生を対象に地域に学 ぶ「トライやる・ウィーク」を実施 し、地域や自然の中で、生徒の 主体性を尊重した様々な活動 や体験を通して、地域に学び、 自分を見つめ、他人を思いやる 心を育てるとともに、自立性を高 め「生きる力」を育んでいきま す。	教育推進部	教育保育課	A	市内7中学校の2年生と川西 養護学校の中学部2年生につ いて県立一庫公園などで実施 した。 地域や自然の中で、地域の 方々や従業員の方々と環境保 全体験や職場体験を行った。	地域や自然の中で、地域の方々や従業員 の方々と環境保全体験や職場体験を行 い、地域に学び、自分を見つめ、他人を思 いやる心を育てることができ、「生きる力」を 育むことができた。	地域参画の視点を継続する 中で、SDGsの視点を引き続き 取り入れていく。 地域の事業所やボランティア の方々と継続して「トライや る・ウィーク」に今後も取り組ん でいけるように関係を構築し ていく。	
6	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の熟成 および生物多様 性教育	2)	教職員や市民を 対象とした研修の 実施	①	教育研究	教職員対象に「環境体験研修」 を実施し、日本一の里山である 黒川地域・猪名川水系・身近な 自然などを体験し、自然・生物・ 環境教育など体験的な研修を 行っています。	教育推進部	教育保育課	A	教職員対象に「環境体験研 修」と「里山フィールド研修」 を実施し、日本一の里山である 黒川地域・猪名川水系・身近 な自然などを教職員が体験し た。	日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身 近な自然などの恵みを教職員が再認識した。 各学校の実情に合わせて教職員が児童へ授 業するには専門的な知識の定着が課題であり、 自然活動団体とのさらなる連携など検討する必 要がある。	継続的に「環境体験研修」 と「里山フィールド研修」を 実施し、専門的な知識の定着を 教職員に図るとともに、川西 市を教材とした環境学習プロ グラムの定着も同様に図る。	
7	基本 戦略1	環境教育の充実 による「ふるさと川 西」意識の熟成 および生物多様 性教育	2)	教職員や市民を 対象とした研修の 実施	②	環境学習の充 実	公民館などの学習の充実を図 り、様々な世代への環境教育も 充実させていきます。	市民環境部	川西公民館	A	清和台公民館(「ゆめはたる見 学とロボットクラフト」と「SDGs端 材を使い クリスマスツリー作 り」講座)、川西公民館(子ども 生きもの観察隊〜小川で水生 生物観察〜)、けやき坂公民 館(自然観察セミナー「芋生川 の生き物・ふしぎ・発見」、南公 民館(園芸講座 苔テラリウム 講座〜瓶の中につくる癒やし の空間〜)東谷公民館(冬の 野鳥観察)を実施し、5館合計 で111人が環境に関する公民 館講座を受講した	各館で地域の特性に沿った環境学習を実 施した。各館で地域ニーズと合わせて工夫 しながら講座を開催していることから、全館 で実施とはなっていない。	関係所管課と協力して環境学 習の充実にも努める。	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
8	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	1)	広報や市HPによる情報発信	①	自然環境情報の発信	市HPや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわにしの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。	市民環境部	環境政策課	A	以前から市HPに自然活動団体や企業を紹介するページを設けている。令和6年度にはシロバナウンゼンツツジの公開やクスギの植樹など自然活動団体の活動を広報誌に掲載した。	市広報誌を中心に自然活動団体の活動を紹介することが出来た。また、環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。その他、自然活動団体の活動をPRする場としてのパンフレットラックを市役所と中央図書館に設置した(令和7年度から運用)。今後は市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していく。また、市HPの各団体の紹介ページを更新していくとともに活動内容を発信していく必要がある。	市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していくとともに活動団体や企業を紹介するページの内容等を更新し、引き続き情報発信に努める。	
9	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	1)	広報や市HPによる情報発信	②	国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発	生物多様性に関する国や兵庫県の情報について、市HP上で概要版の掲載やリンクを貼り、一元で閲覧でき、情報が入手しやすくなるよう整備します。	市民環境部	環境政策課	A	国・兵庫県からの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	国・兵庫県からの情報を市内部で情報共有するとともに、市民や自然活動団体等へ速やかに発信することができた。	引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。	
10	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	1)	広報や市HPによる情報発信	③	観光の推進	市HPや観光マップなどを通して、市の自然や歴史、市内の観光地のPRを行っていきます。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	市観光協会と協力し、市の自然や歴史、観光地を紹介するHPを更新した。	HPを更新し、最新の市の自然・観光の情報を発信した。	市内に整備している看板の情報更新やHPの見直しを行いながら、市内の自然や歴史、観光地のPRを進めていく。	
11	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	1)	広報や市HPによる情報発信	④	地産地消の推進	本市の特産品であるイチジク、クリ、モモなどについて、市広報誌や市HP等を用いてPRし、地産地消を進めます。	市民環境部	産業振興課	A	モモ及びイチジクの即売会を実施。クリは直売所にて特設ブースを設けて販売され、市HPでPRを行った。また、市内で採れた作物を「川西そだち」とし、PRのぼりを作成・配布し、市HPでもPRを行った。さらに、イチジクは、航空会社とタルト専門店の協力で東京へ空輸し、イチジクタルトを販売し、市HP等でPRを行った。	モモ及びイチジクの即売会を実施した。市HP以外にも、PRのぼり「川西そだち」の設置、航空会社やタルト専門店のSNSなど多数の紹介がなされたことで市内外に特産品をPRできた。	引き続き特産品の即売会を実施する。市HPのほか、直売所マップに情報を追加する等、積極的にPRする。	
12	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	1)	広報や市HPによる情報発信	⑤	市街地における里山のPR	JR川西池田駅前ロータリーのクスギを台場クスギに仕立てるなど、市街地において、北部の里山の自然を身近に感じられるようにします。	土木部	公園緑地課	A	昨年度キセラ川西せせらぎ公園のクスギの台場仕立てを実施したものについては不要枝の剪定を行い、クスギの成長、北部里山の自然を身近に感じられるよう努めた。	クスギは順調に育っており、駅前やキセラ川西を行き交う人々に里山の自然を身近に感じられる場を創出している。	より多くの市民に里山を感じてもらえるよう、キセラ川西せせらぎ公園に続き、タイミングを見てJR川西池田駅前ロータリーについても台場クスギへの展開を進める。	(委員)JR川西池田駅のところ里山のPRが目的とされているならば、もうちょっとPRしてもいいのかなと思うがどうか。(市)公園緑地課が主管になるが、JRのところは通常の剪定を依頼してやっており、台場クスギへの展開はしていないという状況だが、またタイミングを見て、検討していくという話である。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
13	基本 戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	2)	本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	①	再生可能エネルギーの普及啓発	市役所本庁舎南側壁面やキセラ川西プラザ、市消防本部に太陽光発電システムを設置し、モニターで観察できるようにするなど、地球温暖化対策(地球温暖化による生きものの衰退・絶滅の防止)として再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を進めていきます。	市民環境部	環境政策課	A	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターに発電状況を表示している。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターで発電状況を見ることができる状態であり、来場者に再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を行うことが出来た。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部については引き続きモニターで再生可能エネルギーの啓発を行う。市役所についても啓発の再開に向けモニター部品の交換等を検討する。	
14	基本 戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	2)	本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	②	景観形成の情報発信	川西市景観計画により、市の自然や歴史文化をはじめとする様々な景観資源を活用し、魅力的な景観を周知するとともに、景観形成に向けた取り組みの啓発を進めていきます。	都市政策部	都市政策課	A	HPへの活動紹介(文化財ガイド、能勢電鉄)・SNSでの川西市の見所(景観樹木の見頃)の紹介等の市民や事業者の活動をインターネットを使って発信することにより、参画と協働を推進する仕組みづくりを行った。	市民や事業者の活動をインターネットに掲載することより、事業者や市民にも情報発信できた。	今後もSNSや動画を活用することで積極的な情報発信を行い、川西らしい魅力的な景観の形成を進めていく	
15	基本 戦略3	生物多様性保全の取組みの強化	1)	市民生活での生物多様性保全の活動の支援	①	外来種対策の推進	外来種の侵入経路、影響、対策の必要性や市民でも実施できる外来種対策の方法などをまとめ、市HPなどで広報するなど、外来種に対する対策を進めます。	市民環境部	環境政策課	A	以前からヒアリやセアカゴケグモ、アカミミガメ、アメリカザリガニについての対策、駆除方法などを市HPに掲載しているが、R6年度は主に兵庫県から通知されたクビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウなどの情報についても速やかに市内で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	主に県から提供された特定外来生物の指定情報について、市内で情報共有するとともに速やかに市HPに掲載したり、自然活動団体にメールで情報を発信することができた。	引き続き、国や兵庫県との動きを確認し、迅速な情報発信に努める。	(委員)特定外来生物も含めて、外来生物の存在、あり方と駆除について、考え方や現状を教えてください。 (市)現状としては、県なり国の方でいろいろ新しい指定があったり、対策について情報が環境の部局の方に下りてくるが、それを実際に駆除とか施設を管理している部署や自然活動団体などに情報提供している。あと、ホームページで市民の方に広く情報提供も行っている。各部署なり、各団体に発信することで適正に駆除なり、対策ができるように努めている。 (委員)クビアカツヤカミキリに関して、伊丹市、尼崎市など周辺自治体との情報共有で、例えば「今、川西市の近くに入っている。次、そちらに行くかもしれないので気を付けてください」というような地域同士でのより深い情報共有というのはどの程度されているのか。 (市)市と市の間の決まったルールはない。ただ県下で、芦屋や西宮で発見された記事などを注意して見たり、県から情報が下りてくるという状況である。特定外来生物で、クビアカツヤカミキリなどは県が集約している。仕組みは仕組みとしてあっていいのかなと思う。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
16	基本 戦略3	生物多様性保全 の取り組みの強化	2)	本市による文化 財の保全及び生物 多様性向上の 事業の実施	②	文化財保存啓 発	天然記念物などの貴重な財産 である文化財の保全を進めると ともに、その普及啓発、活用を 進めていきます。	市民環境部	生涯学習課	A	兵庫県立一庫公園モリアオガ エル生息地を川西市登録文化 遺産(天然記念物)に登録し た。	川西市登録文化遺産(天然記念物)の新た な登録を進めることができた。	指定・登録文化財(天然記念 物)の普及啓発、活用を推進 する。	
17	基本 戦略3	生物多様性保全 の取り組みの強化	2)	本市による文化 財の保全及び生物 多様性向上の 事業の実施	②	ため池などの保 全	農業用灌漑のため、水利組合 が管理するため池や農業用水 路などの補修・改修、水難防止 のため、安全柵の設置などへの 支援を行っています。今後の改 修などに際しては、ため池など における生物多様性の重要性 に配慮し、進めていけるよう検討 していきます。	市民環境部	産業振興課	A	地元水利組合等が実施する農 業用施設の補修や改修の工 事について支援を行うととも に、工事に際しては生物多様 性の重要性に配慮して進める よう依頼した。	地元水利組合等が農業用施設の補修や 改修の工事を実施することで、農業用施設 の適切な管理やため池などの保全を行うこ とができた。	今後も地元水利組合等が実 施するため池や農業用水路 などの補修や改修の支援を 行うとともに、工事に際しては 生物多様性の重要性に配慮 するよう依頼する。	
18	基本 戦略3	生物多様性保全 の取り組みの強化	2)	本市による文化 財の保全及び生物 多様性向上の 事業の実施	③	生物多様性に 配慮した公園・ 緑地管理の推 進	公園整備の際は、在来種の植 樹に努め、特定外来生物の防 除に向けた管理を実施してい きます。 緑地は、生物多様性の観点か ら、保全する維持管理団体が継 続して活動を行えるよう、公園 ・緑地など、みどりの維持管理活 動を行う団体間の連携により、 活動を高め合う仕組みづくりを 行います。	土木部	公園緑地課	A	開発による提供公園につい て、事業者との協議を行い、 在来種の植樹に努めた。 また、市内緑地において、市 民活動団体主体の維持管 理、緑地の清掃活動により 集められたごみの回収を行う など活動を支援し、まち山の 保全に努めた。3団体が継 続して維持管理を行うことが できた。	公園整備の際は、在来種の植樹に努め ることができたが、既存の公園でトウネ ズミモチなどの外来種が確認されてい る。都度対応しているが、完全な除去に は至っていない。	公園整備の際は、在来種の 植樹に努める。 引き続き、団体の支援や連 携を図り、緑地の維持管理 を行う市民活動団体に関す る情報発信を行う。	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略			施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
19	基本戦略3	生物多様性保全の取組みの強化	3)	①	ナラ枯れ対策	カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が西日本を中心に発生しているため、被害拡大防止に取り組んでいます。	市民環境部	産業振興課	A	被害最先端地の指定外のため、ナラ枯れの被害拡大防止事業は行わなかった。	ナラ枯れ被害の確認数が減少し、被害最先端地から外れている。	県と連携し、ナラ枯れの発生状況等、動向を注視する。	
20	基本戦略3	生物多様性保全の取組みの強化	3)	②	有害鳥獣対策	川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っています。また、鳥獣による食害防止対策としての防護柵設置等に対する補助を行っています。	市民環境部	産業振興課	A	県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にイノシシやシカの捕獲及び処分を実施した。 〈前回の委員意見への回答、補足〉 〈前回委員意見〉森林を保全している市内の市民活動団体の活動をサポート、推進できるような形で予算をお願いしたい。 (市)令和6年度から補助の制度を変えていて、防護柵の設置など、森林の保全に活用可能な支援制度「川西市森林整備等活動交付金」を新設し、令和6年度から運用を開始した。令和6年度は4団体が活用され、計80万円の支援を実施した。 (前回委員委員)森林環境譲与税が各自治体で使用されているので、そういう財源を市内の植生保全にぜひ活かしていただきたい。 (市)森林環境譲与税交付金を令和6年新設の「川西市森林整備等活動交付金」の財源に充てて活用している。	県猟友会川西支部協力のもと、一定数の捕獲・処分の成果が上がっているが、農作物被害は無くなっていない。 引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数管理を図っていく。	引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数管理を図っていく。	(委員)防護柵を設置することがあるとも聞くので、そのあたりの支援がどれくらい進んでいるのか現状を教えてください(具体的な件数)。 シカ柵、防護柵の設置はもちろんだが、森林を保全している市内の市民活動団体の活動をサポート、推進できるような形で予算をお願いしたい。 (産業振興課)農作物被害防止を目的とした防護柵の設置について、令和5年実績では8件、計約38万円の支援をしました。 令和6年度は11月末時点で11件、計約50万円の支援を行っています。 (委員)防護柵の設置について、回答には農作物被害防止の支援状況を回答いただいたが、以前に私が質問させていただいたのは、山の斜面でシカの食害が広がっているということで、特に市民団体が活動している地域で食害が広がっているのか、そこでの防護柵の支援がどれくらい進んでいるのかということで質問させていただいた。回答いただいた中に植生保全という目的の防護柵の設置というのが含まれているのか。 (市)令和6年度から補助の制度を変えていて、森林団体が森林の保全に伴う資材の購入等を含めている。次年度に取りまとめでお伝えする。 (委員)森林環境譲与税が各自治体で使用されているので、そういう財源を市内の植生保全にぜひ活かしていただきたい。
21	基本戦略3	生物多様性保全の取組みの強化	3)	③	外来生物対策	農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行っています。また、農作物被害防止対策に対する補助を行います。さらに、セアカゴケグモ、ヒアリ、アルゼンチンアリや、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されるクビアカツヤカミキリについて、注意喚起や駆除に関する啓発を行っています。	市民環境部	産業振興課 環境政策課	A	【産業振興課】 県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にアライグマやヌートリアの捕獲及び処分を行った。 【環境政策課】 セアカゴケグモ、ヒアリに加えてクビアカツヤカミキリについて、国・兵庫県からの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に注意喚起や駆除に関する情報を発信した。 【産業振興課】 特にアライグマの捕獲依頼申請数及び捕獲数が多く、農作物被害等が多数発生している。 【環境政策課】国・兵庫県からの情報を市内部で情報共有するとともに、市民や自然活動団体等へ速やかに発信することができた。	【産業振興課】 引き続き県猟友会川西支部と連携し、アライグマやヌートリアの捕獲・処分を行い、農作物被害等の防止に努めている。 【環境政策課】引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。		

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
22	基本 戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	1)	市民、団体、企業などとの連携の構築	①	生物多様性に関する情報交換の場の提供	生物多様性に関する取組みを行っている市民、市民活動団体、事業者などが交流、情報交換などができる機会や場所を設けます。 「黒川を中心としたまちづくり方針」に基づき、旧黒川小学校グラウンド内に川西市黒川里山センターを整備します。里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、生物多様性に関する情報を発信していきます。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、令和6年に川西市黒川里山センターの南北棟を耐震改修工事した。 黒川里山センターは令和5年度より指定管理者による管理運営を行っており、旧黒川小学校の南北棟で里山学習の受け入れや生物多様性に関するフィールドワークを周辺施設や関係団体と協力して行った。	川西市黒川里山センターの管理運営を指定管理者が行い、旧黒川小学校南北棟を拠点として生物多様性に関する事業を行うことができた。引続き情報発信していくとともに、地域外の担い手である関係人口の拡大による地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	令和6年度に南北棟の耐震改修工事を行った。今後もセンターを中心として情報発信を行っていく。	
23	基本 戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	1)	市民、団体、企業などとの連携の構築	②	森林ボランティアの支援	森林の保全に取り組む森林ボランティア団体の活動支援を行い、日本一の里山と言われる黒川地区の里山を含めた森林の整備に努めています。	市民環境部	産業振興課	A	新たな支援制度により黒川地区の里山を含めた森林の整備を行う市内の活動団体に補助金を交付することで、活動支援を実施した(関連項目No.20)。	支援対象や支援額の拡充により、4団体に 対し計80万円の支援を実施した。 支援対象を拡充したが、申請団体数は増加していない(関連項目No.20)。	森林保全に取り組む団体等へ支援することにより、森林の整備や保全に努めていくとともに、支援制度の活用が進むよう周知を図る(関連項目No.20)。	
24	基本 戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	1)	市民、団体、企業などとの連携の構築	③	自然や景観への保全活動をサポート	市街地に点在する自然環境や景観については、市民団体や事業者などが実施する保全活動へのサポート方法を検討します。	都市政策部	都市政策課	A	・HPへの活動紹介やまちづくり支援事業の募集案内の掲示等の住民・事業者等による景観形成の取組みや支援により、保全活動へのサポートへ繋げるよう情報発信を行った。	・市民団体の活動をインターネットを使って掲載することにより、知ってもらい興味を持ってもらうことで保全活動へのサポートへ繋げるような情報発信ができた。 現在掲載できている件数が少なく、まだ市内には知られていない団体、活動があるため、順次発信していく。	住民・事業者等による景観形成の取組みをホームページで紹介する等、今後もインターネットを活用し積極的な情報発信を行う。	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略				施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題	今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
25	基本 戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	1)	市民、団体、企業などとの連携の構築	④	事業者との連携及び生物多様性戦略作成の応援	兵庫県立一庫公園、独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動を推進します。	市民環境部	環境政策課	A	環境月間の展示を6月に実施した。また、環境フェスタを10月に開催した。その中で国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたるの活動内容を紹介するなど、団体、事業者と連携・協力を維持することができた。	環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。	今後も環境フェスタなどを通じて団体、事業者と連携・協力を維持していきたいと考えている。	(委員)環境フェスタに来てくれた人たちが自分たちの活動に興味を持ってくれるとか、関わりを持ってくれるということがあればいいが、なかなかそこまで発展していない。「参加団体は1日協力しているだけである。参加するメリットを感じられることをしてほしい。」という声に参加者からあった。こういう開催方法でいいのかというところを主催者として振り返ってほしい。 (市)まずは知ってもらうということをターゲットにやっている。ワークショップなどを各団体をお願いしているが、自然に触れあってもらうためのキッカケ作りをしていて、そこで身近に感じてもらえたら現地に行ってもらったりして、徐々に活動の幅が広がっていく、自分にとっての興味が広がっていくとかそういうことにつながればということをやっている。また、振り返りとしてアンケートを実施している。これは来場者と出展者のアンケートをまとめて各団体に共有しながら、試行錯誤しながら行っているところである。
26	基本 戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	2)	兵庫県や市民団体との既存事業の継続	①	北摂里山博物館構想	都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取組みを兵庫県と連携して実施していきます。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として黒川里山センター南北棟を耐震改修工事した。	川西市黒川里山センター新棟南北棟の管理運営を指定管理者が行い、こどもを中心とした里山体験学習等の事業を行った。引き続き関係人口の拡大を図り地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	令和6年度に南北棟の耐震改修工事を行い、3棟揃った運営を開始している。センターを中心とした北摂里山を持続的に保全しつつ、地域の活性化につながる取組を展開していくために足を運んでもらうための方法を協議していきたい。	
27	基本 戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	2)	兵庫県や市民団体との既存事業の継続	②	NPOなどと連携した河川美化の実施	猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っています。	美化衛生部	美化推進課	A	NPOなどが実施する河川美化活動の支援として、ごみの収集を10回実施した。	NPOなどと連携し、ごみの収集を行った。	引き続き、NPOなどが実施する美化活動を支援していく。	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査
(令和6年度)

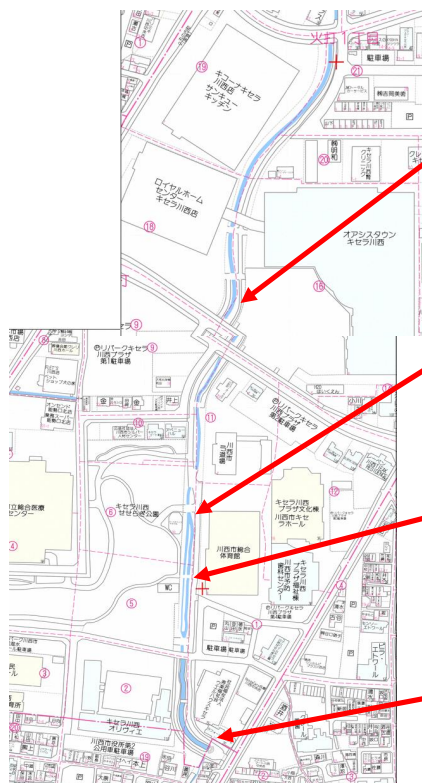
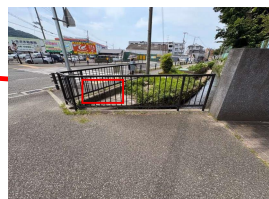
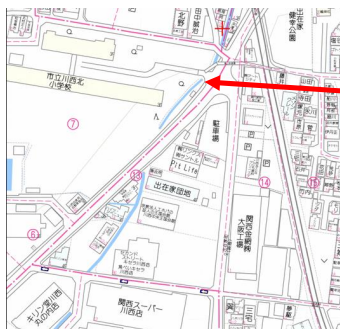
自己評価の評価方法
A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略			施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己 評価	令和6年度の実施状況 (2024年度)	成果と課題		今後の方向性	参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)
	全体、その他						市民環境部	環境政策課		<div>〈前回の委員意見への回答、補足〉 (前回委員意見)川西市環境フェスタにおいて、キセラの水路でもともとどのような生物が生息していて、どのような環境で今どのように変化してきたのか、どのような生物がいるのかというのを大きく取り上げるような内容で、川西市の展示で出展できないか。 (市)川西市環境フェスタ出展予定団体と調整し、団体に水路の資料を展示してもらうことになった。</div>				(委員)川西市環境フェスタにおいて、キセラの水路でもともとどのような生物が生息していて、どのような環境で今どのように変化してきたのか、どのような生物がいるのかというのを大きく取り上げるような内容で、川西市の展示で出展できないか。キセラの水路を大きな主題として取り上げていただけないかと思っている。その点についてはどのようにお考えか。 (市)環境フェスタ自体は、基本的には市民活動団体の発表の場、実際の取組みの場と位置付けているので、そこで、市がやっていくべきなのかというところが悩みどころである。どういう形がいのか考えさせてほしい。

出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について

<水路周辺地図>

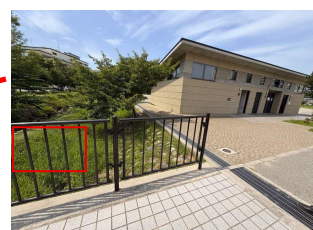
掲示場所(案)



<掲示物文言案>

- 1.水路の豊かさを守ろう
～いろいろな生物が棲んでいます～
- 2.いろいろな生き物がいます。
～みんなで守りましょう～
- 3.みんなで守ろう！
水路の環境★ 生物多様性★
- 4.自然環境に関心を持とう！
～生態系を維持するためにできることは？～

※上記文言案に地図、写真などを組み合わせて掲示
ラミネート表示



【資料 4】

自然活動団体用パンフレットスタンド設置概要

1. スタンド設置場所 ①市役所 1 階南玄関前（別紙 1、案内図参照）
 ②川西市立中央図書館入口（アステ川西 4 階）
2. スタンド設置日 令和 7 年 5 月下旬
3. 配架対象団体 川西市内で活動している自然活動団体 15 団体（黒川里山センター含む）
4. 配架可能な印刷物 A 4 サイズまでのチラシ、パンフレット、リーフレットなど
 自然活動団体の入会案内、行事案内など各団体の P R になる印刷物



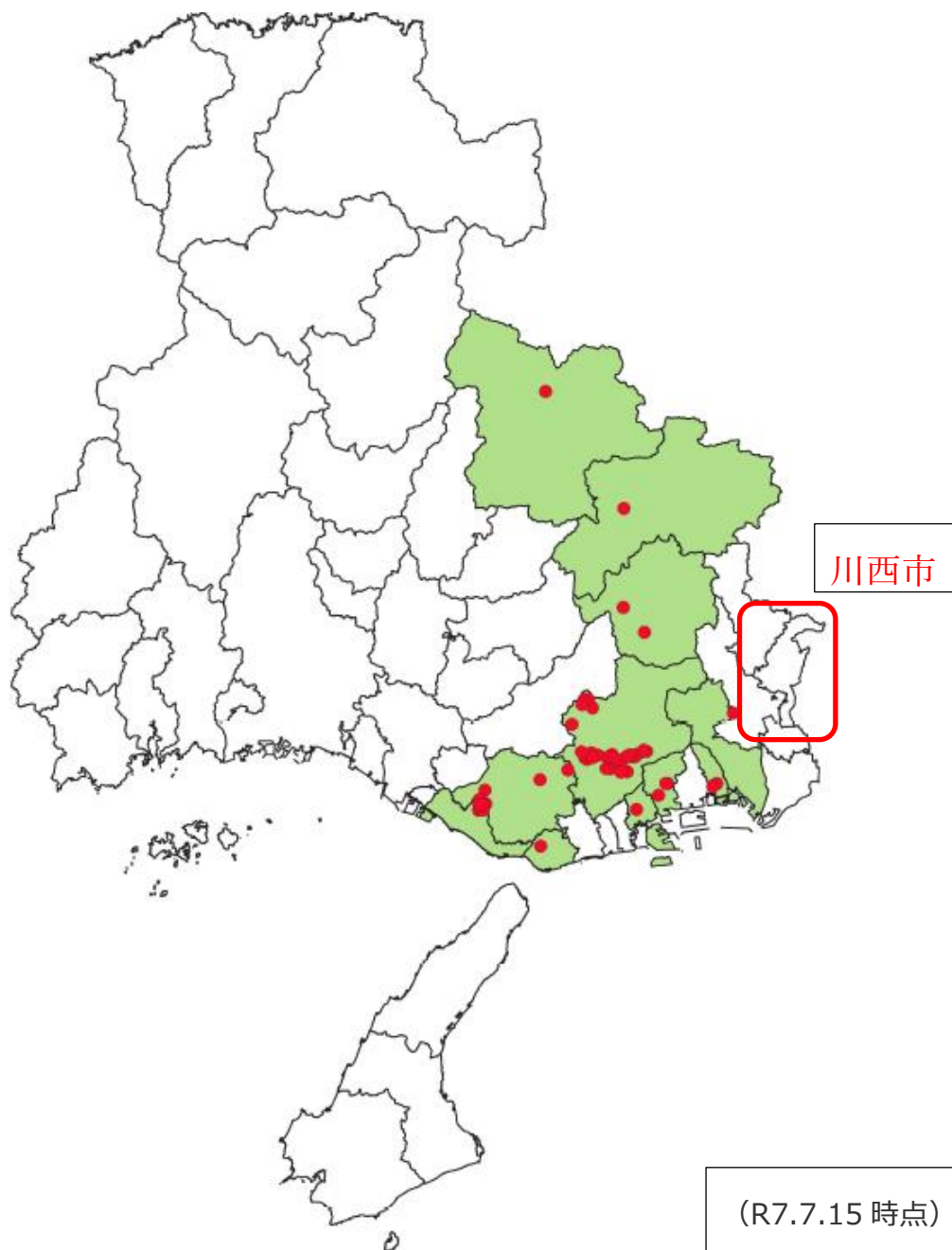
市役所本庁舎 1 階



中央図書館(アステ川西 4 階)

⑧

本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況 【資料 5】



(「兵庫県環境部自然鳥獣共生課提供」)

市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（１） 【資料６－１】

3-11. 動植物

3-11-1. 現況調査

(1) 現況調査内容

動植物における現況調査内容は表 3-11-1 に示すとおりである。

表 3-11-1 現況調査内容

項目	内容	
調査項目	陸生動物の状況	哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類
	維管束植物※1の状況	植物相、植生
調査方法	現地調査	哺乳類：フィールドサイン法
		鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類：任意観察法
		植物相：任意観察法
		植生：植生図の作成
調査時期	哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類	・哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類 令和 6 年 5 月 19 日 令和 6 年 7 月 20 日
	植物相	・植物相 令和 7 年 4 月 14 日
調査地点	哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類	事業計画地とする。
	植物相	

※1 維管束を有する植物（シダ植物及び種子植物）の総称。

(2) 調査結果

ア) 哺乳類

哺乳類は確認されなかった。

イ) 鳥類

鳥類は 4 目 10 科 12 種が確認された。

重要種は確認されなかった。

ウ) 両生類

両生類は確認されなかった。

エ) 爬虫類

爬虫類は確認されなかった。

オ) 昆虫類

昆虫類は 10 目 40 科 82 種が確認された。

重要種はミヤマアカネ及びシルビアシジミの 2 種が確認された。

カ) 植物

植物類は 35 目 61 科 173 種が確認された。

重要種は確認されなかった。

キ) 植生

事業計画地は、工場及びアスファルト・コンクリートの人工物が大部分を占めていた。次に裸地が多く、植栽については、人工物の合間にギョウギシバ・チガヤ群落などの群落や高木及び低木植栽が点在していた。

3-11-2. 予測及び評価

(1) 土地の形質変更及び緑の回復育成

ア) 予測内容

土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物の予測の内容は表 3-11-2 に示すとおりである。

表 3-11-2 土地の形質等の変更に伴う動植物の予測内容

項目	内容	
予測項目	重要な種及び群落の生息・生育状況の変化	
予測方法	重要な種及び注目すべき生息・生育地について、分布または生息環境の改変の程度を踏まえ、影響の程度を予測する。	
予測時期	土地の形質の変更等	工事中の代表的な時期とする。
	緑の回復育成	工事完了後一定期間をおいた時期とする。
予測地点	事業計画地とする。	

イ) 予測結果

本計画においては、現況の建築物の解体及び整地を行った後、物流施設を建設する予定であるため、現状の動植物の生息・生育基盤は一時的に消失すると予測された。

また、本事業においては、現況の緑地（開発区域の 6%）を上回る、開発区域の約 20%の緑地を設ける計画としており、動植物の新たな生息・生育基盤は確保されると予測する。

なお、ミヤマアカネの生息地である水辺環境については、本計画において改変はない。シルビアシジミの生息地である緑地については、本計画において一時的に消失するが、新たな緑地には現況と同様にシルビアシジミが好む草本類を植栽する計画である。また、シルビアシジミは周辺の公園でも確認されていることから、周辺に生息地が確保されていると考えられる。

ウ) 環境保全措置

予測の結果、土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物への影響は生じるおそれがある。

よって、事業者の実行可能な範囲で環境影響を回避又は低減することを目的として、表 3-11-3 に示す環境保全措置を実施する。

表 3-11-3 土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物に係る環境保全措置

項目	内容
土地の形質等の変更 緑の回復育成	・植栽においては、外来種の選定は控え、可能な限り周辺樹種と調和が図られる樹種や現況の植栽の樹種を選定する。

エ) 環境保全目標

環境保全目標は表 3-11-4 に示すとおりである。

表 3-11-4 土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物に係る環境保全目標

項目	内容
土地の形質等の変更 緑の回復育成	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅に瀕している種のリストに指定されている貴重な動植物の生息、生育や繁殖、繁茂に配慮していること。 ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全に配慮し、動植物に及ぼす影響が可能な限り低減されていること。

オ) 評価

(a) 評価結果

現状の動植物の生息・生育基盤は一時的に消失すると予測されるため、土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物への影響は生じるおそれがある。

ここで、事業者は環境保全措置を実施し、可能な限り環境影響の回避・低減を図る計画としている。

以上より、絶滅に瀕している種のリストに指定されている貴重な動植物の生息、生育や繁殖、繁茂に配慮していること、環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全に配慮し、動植物に及ぼす影響が可能な限り低減されていることから、環境保全目標に適合すると評価する。

(b) 環境への影響

評価結果より、本事業による土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物の著しい影響はないと考えられる。

市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（2）

第1章 事業計画概要

1-1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事業所の所在地

事業者の名称 : 野村不動産株式会社
 代表者の氏名 : 代表取締役社長 松尾 大作
 主たる事務所の所在地 : 東京都新宿区西新宿一丁目 26 番 2 号

1-2. 対象事業の概要

1-2-1. 事業の名称

（仮称）北伊丹物流施設計画

1-2-2. 事業の規模

本事業は、表 1-2-1 に示すとおり、延べ面積が約 99,200m² であり、伊丹市環境影響評価に関する要綱第 2 条別表に示される対象事業（大規模建築物の建築）に該当する。

表 1-2-1 事業の種類及び内容

事業の規模	延べ面積（容積対象面積）：約 99,200m ²
事業の種類	大規模建築物の建築 建築基準法第 2 条第 1 号に規定する建築物（住宅施設を除く。以下「特定建築物」という。）であって、当該特定建築物の延べ面積（用途が不可分の関係にある 2 以上の建築物の場合においては、その延べ面積の合計をいう。以下同じ。）が 3 万平方メートル以上のものの新築及び増築、又は特定建築物の増築であって、初めて当該増築により当該特定建築物の延べ面積が 3 万平方メートル以上となるもの。

1-2-3. 事業の目的

近年、通信販売需要の急伸を受け、宅配便取扱個数が大きく増加し、配送の小口化、再配達による多頻度化等によりトラック需要が高まっている。

一方で、トラックドライバー不足であるなか、「物流の 2024 年問題」（働き方改革関連法、自動車運転者の労働時間等の改善のための基準）への取組が課題となっている。

こうした課題に対して、従来の郊外から消費者に配送する郊外型大規模物流施設では、柔軟な対応が困難となる場合が多く、労働力、エネルギー利用の非効率化に伴うサービス低下が生じる可能性がある。

限られた労働資源やエネルギー資源を最大限活用する観点から、消費者とのラストワンマイル（発送された商品が最終の物流拠点から消費者に届くまでの配送のこと）を縮めたサービス強化として、最終配送拠点を都市部またはその近郊に配置する都市型物流施設が着目されている。

（仮称）北伊丹物流施設計画（以下、「本事業」という。）の事業計画地は、伊丹市の北部に位置しており、当該エリアは、国道 171 号が東西に横断し、阪神高速道路の池田出入口、中国自動車道の中国豊中 IC 及び宝塚 IC に約 10 分でアクセス可能な交通インフラの充実したエリアである。

また、当該エリアは、伊丹市、川西市、宝塚市、池田市及び豊中市の人口集中地区に囲まれており、郊外型物流施設と比較し、従業員雇用の観点でも優位性が高い。

以上のことから、当該エリアは都市型物流施設の立地ポテンシャルを十分に有しており、郊外型物流施設に比べて、効率的なサービス提供が可能である。

こうした立地条件に加えて、野村不動産株式会社は全国での開発実績を元に、高機能型物流施設（車両ナンバー認証システム、トラックバース予約管理システム、照明一括管理システム等が導入された施設）とすることで更なる物流の効率化を図る。このように、テナント誘致とともに猪名川沿いに立地する産業施設等とも密接に関わりのある物流関連産業の振興により、雇用の創出及び周辺産業との相乗効果を発揮させ、地域経済全体の活性化を図ることを目的としている。

1-2-4. 事業の内容及び立地場所

本事業は、図 1-2-1 に示すとおり、伊丹市と川西市の市境にまたがるニデックオーケーケー（株）（以下、「Nidec」という。）の本社・猪名川製造所敷地の一部において、延べ面積が約 99,200m²の物流施設を建設するものである。

野村不動産株式会社は、Nidec による事業計画地の解体、整地が行われたのち、Nidec より事業計画地を引き受けることとなっている。

なお、Nidec は、本事業供用後も事業計画地外敷地において、事業を継続するとされている。

本事業の立地場所等の概要は表 1-2-2 に示すとおりであり、事業計画位置は図 1-2-2 に示すとおりである。

表 1-2-2 立地場所等の概要

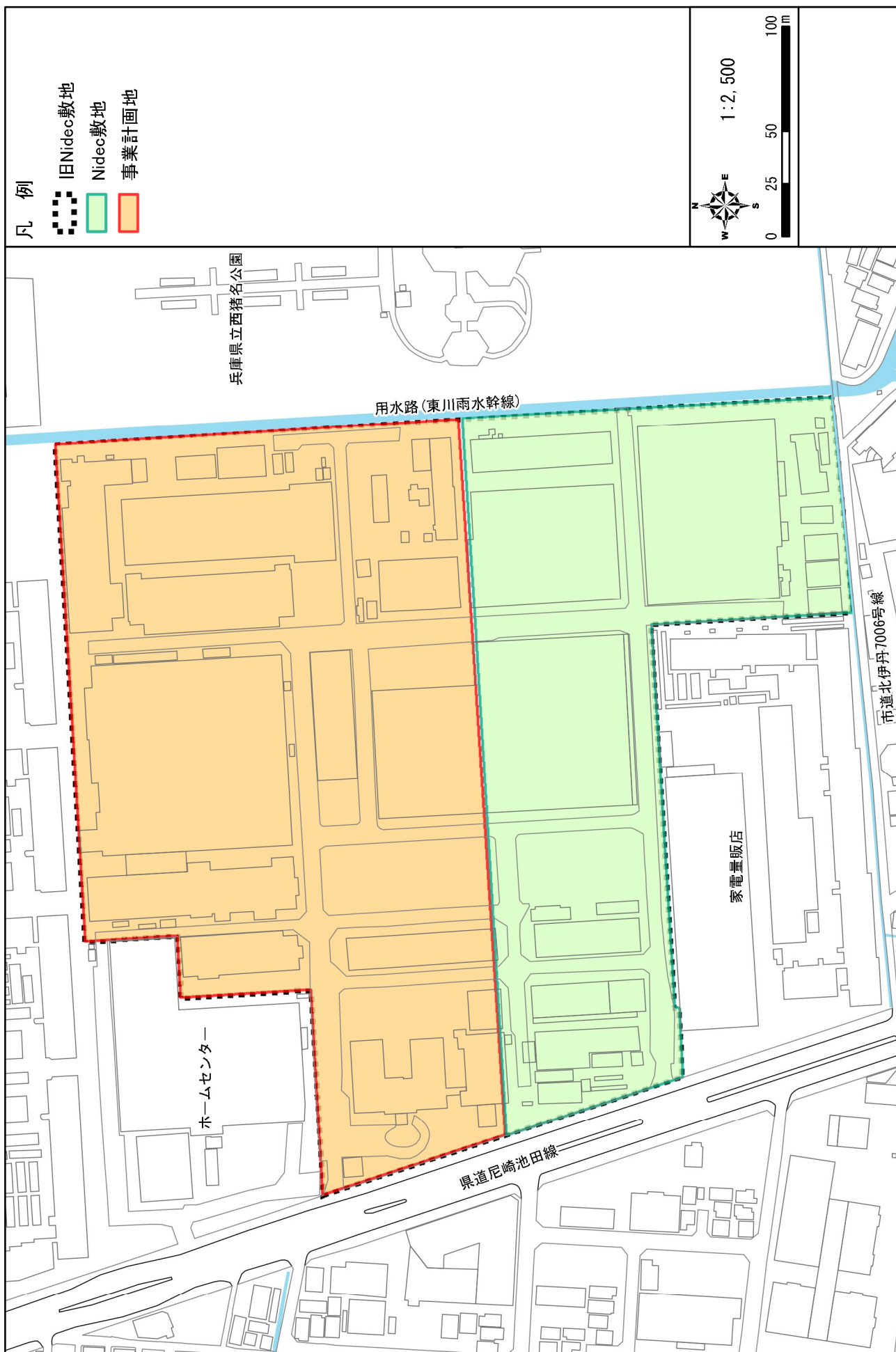
所在 (地番)	兵庫県伊丹市、川西市 (兵庫県伊丹市北伊丹 8 丁目 10-1 他 3 筆)
位置	JR 福知山線「北伊丹駅」から約 0.6km 阪神高速道路「池田出入口」から約 2.5km 中国自動車道「中国豊中 IC」から約 4km 中国自動車道「宝塚 IC」から約 4km 大阪国際空港（伊丹空港）から約 3km
用途地域	工業地域（伊丹市、川西市）
建ぺい率	60%
容積率	200%
接道状況	敷地西側：県道尼崎池田線（片側 2 車線、幅員 27m） 敷地南側：市道北伊丹 7006 号線（1 車線、幅員 3.7m）
制限高さ※1	T.P. ※3 約 41～48m（おおよそ G.L. 25～38m※4 となる。）
浸水高さ※2	0.5m 以上 3m 未満

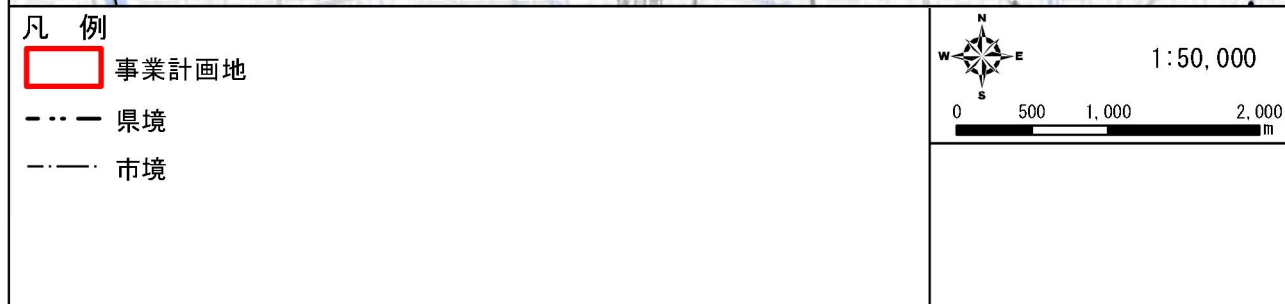
※1 出典：「大阪国際空港周辺における物件設置制限確認法 HP」に基づく（令和 5 年 11 月閲覧）。

※2 出典：「Web 版伊丹市防災マップ」における洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）
（令和 5 年 11 月閲覧）

※3 T.P.は東京湾平均海水面（Tokyo Peli）であり、日本の標高の基準を示す。

※4 G.L.はグラウンドレベルの略であり、地盤面からの高さを示す。なお、事業計画地の地盤面の高さは一定ではなく、また、事業工事に伴い、地盤面の高さは変動する可能性がある。





(仮称)北伊丹物流施設計画に係る環境影響評価について

対象事業の概要

対象事業の概要

事業名称	(仮称)北伊丹物流施設計画
事業計画地	北伊丹8丁目10-1他3筆
事業者	野村不動産株式会社
事業の種類	大規模建築物の建築
事業の規模	延床面積:約104,891平方メートル
実施根拠	伊丹市環境影響評価に関する要綱

手続きの実施状況

環境影響評価概要書

提出		令和6年4月15日
公表		令和6年5月1日
縦覧期間		令和6年5月1日から5月21日まで
住民意見	提出期間	令和6年5月1日から5月21日まで
	提出件数	0件
	見解書の提出	—
伊丹市環境審議会		令和6年度第1回伊丹市環境審議会(5/20)
		令和6年度第1回伊丹市環境審議会専門委員会(7/1)
		令和6年度第3回伊丹市環境審議会(8/19)
		—
審査意見書(市長意見)		令和6年8月26日 第1次審査意見書(PDFファイル:262.7KB)

環境影響評価準備書

提出		令和7年5月7日
公表		令和7年5月15日
縦覧期間		令和7年5月15日から6月14日まで
説明会	開催日時、場所	—
	参加人数	—
	説明会実施状況報告書の提出	—

住民意見	提出期間	令和7年5月15日から6月14日まで
	提出件数	—
	見解書の提出	—
伊丹市環境審議会		—
		—
		—
		—
審査意見書(市長意見)		—

環境影響評価書

提出	—
公表	—



GET
Adobe Acrobat Reader

PDFファイルを閲覧するには「Adobe Reader (Acrobat Reader)」が必要です。お持ちでない方は、左記の「Adobe Reader (Acrobat Reader)」ダウンロードボタンをクリックして、ソフトウェアをダウンロードし、インストールしてください。

川西市

黒川里山センターとは？

里山の自然や文化を楽しみながら、地域の人々とふれあうことができる交流の場です。明治時代に建てられた旧黒川小学校をリノベーションした2つの建物と、2024年に建てられた新棟の、あわせて3棟があります。

貸室のご利用はもちろんイベントへの参加やハイキングのひと休みの場として、お気軽にお立ち寄りください。



黒川でモノづくり 里山アトリエ

3才以上 毎週土曜日・日曜日

自然素材で自由に工作！
モノづくりのゆったりとした時間をお楽しみください。(南棟)



黒川で読書 森のどしよしつ どんぐり

どなたでも 毎週水～日

図書の閲覧・貸出ができます。
本棚オーナーになれば自分の好きな本を貸し出すこともできます。(南棟)

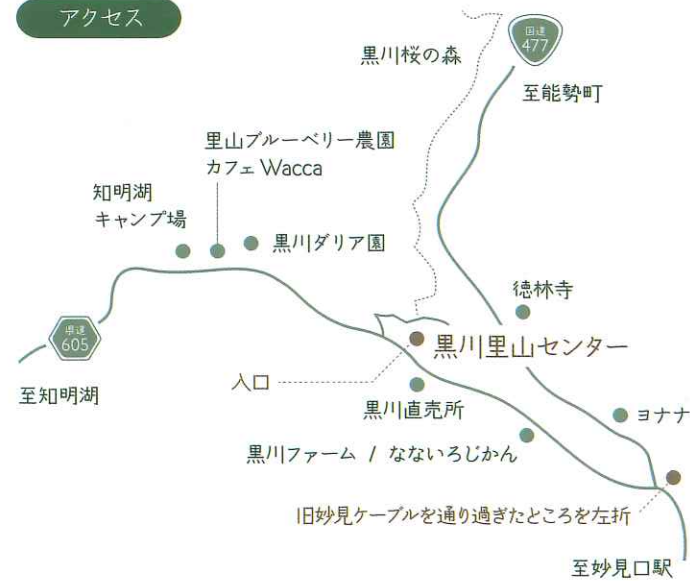


黒川で交流 黒川みんな食堂

どなたでも 季節に1回

地域の食材をみんなで料理し、ゆるやかにつながる交流の場。

アクセス



名称 川西市黒川里山センター

住所 〒666-0101 兵庫県川西市黒川字中尾 264 番

ご連絡 TEL: 072-738-0107 MAIL: info@kurokawa-satoyama.jp

開館日 毎週 水曜日～日曜日

お車でお越しの方

梅田から新御堂筋～箕面グリーンロード経由、
箕面とどろみ IC 下車。箕面森町・
豊能町吉川方面へ進み、国道477号から
妙見の森ケーブル跡を過ぎて
左折、県道 605 号を直進(約 1 時間)。
*車はグラウンドに 20 台程停められます(無料)

詳しくはHPへ



最新情報は SNS で



指定管理者：



ココレオの森



くろかわ
さとやまセンター

KUROKAWA SATOYAMA CENTER

日本の里山ここにあり



貸室利用

一般 毎週水～日

地域団体や親子サークル、学校、企業など、様々な方にご利用頂いています。自然体験や外ヨガ、音楽イベントなど、里山の環境を活かした研修やイベントにぜひご活用ください。(裏面参照)



里山を知る 黒川里山塾

おとな・子ども 週末 1ヶ月に1回

地域の方を講師に迎え、黒川の自然や文化、人の魅力を楽しむ講座。生きもの観察や里山林づくり、郷土料理づくりなどを予定しています。



里山で遊ぶ 里山あそび

家族 週末 2ヶ月に1回

散策、工作、たき火など、里山の四季を感じる家族向けの自然体験



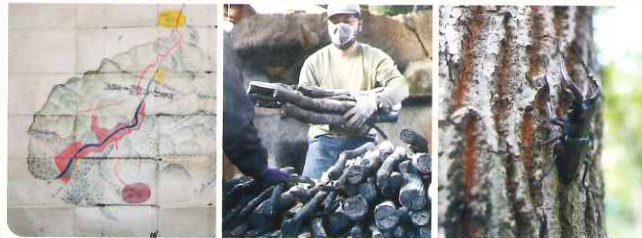
里山で過ごす 里山スクール

小中学生 毎週水曜日・木曜日

小中学生の平日の居場所。里山の四季折々の自然を楽しみながら散策、料理、モノづくりを通して自分の“好き”に出会えます。

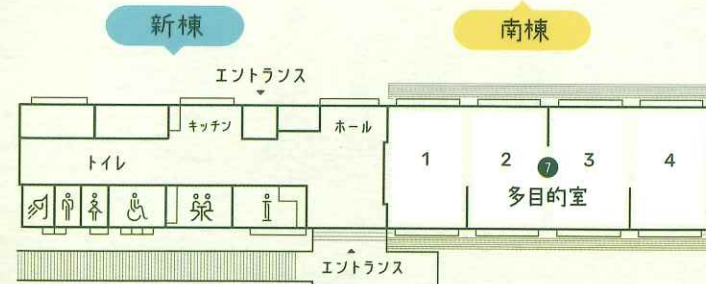
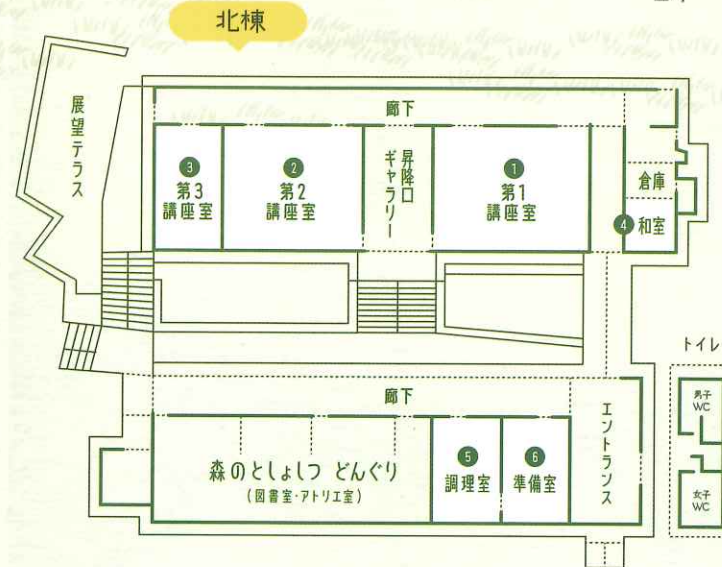
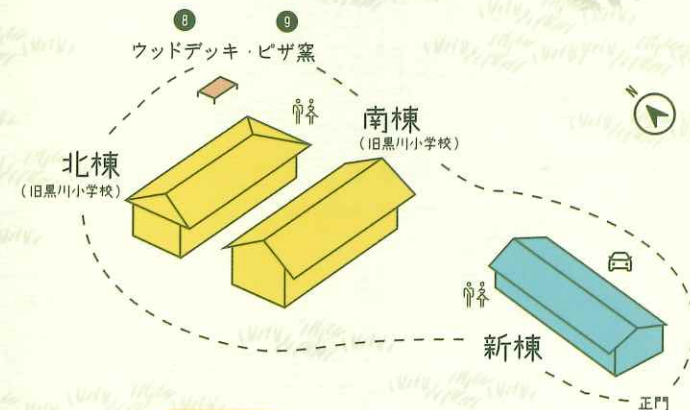


黒川の里山が 日本一と言われる理由



黒川は、豊臣秀吉や千利休も愛用した茶会で使用される菊炭の生産地であり、菊炭（一庫炭）の材料であるクヌギを育てるために人が常に手入れをしてきたことから、「日本一の里山」と呼ばれています。

黒川里山センターマップ



貸室について

室内	部屋名	定員	料金 (50分)
北棟	① 第1 講座室	40 人	380 円
	② 第2 講座室	40 人	340 円
	③ 第3 講座室	20 人	170 円
	④ 和室	10 人	120 円
	一棟貸し (昇降口ギャラリーを除く) 1,010 円		

南棟	⑤ 調理室	20 人	160 円
	⑥ 準備室	20 人	160 円

新棟	多目的室 1 区画	12 人	710 円
	⑦ 多目的室 全面	50 人	2,840 円

野外	定員	料金 (一日)
----	----	---------

⑧ ウッドデッキ	40 人	2,000 円
(たき火スペース含め専有する場合)		

⑨ ピザ窯	40 人	3,000 円
(ウッドデッキ・たき火スペース含む)		



※番号がついていないところとウッドデッキは、フリースペースです

使用料の減免について

使用料の減免制度もありますので、詳しくはお問い合わせください。

川西市公共施設
予約システム

